

輸入粗飼料の情勢

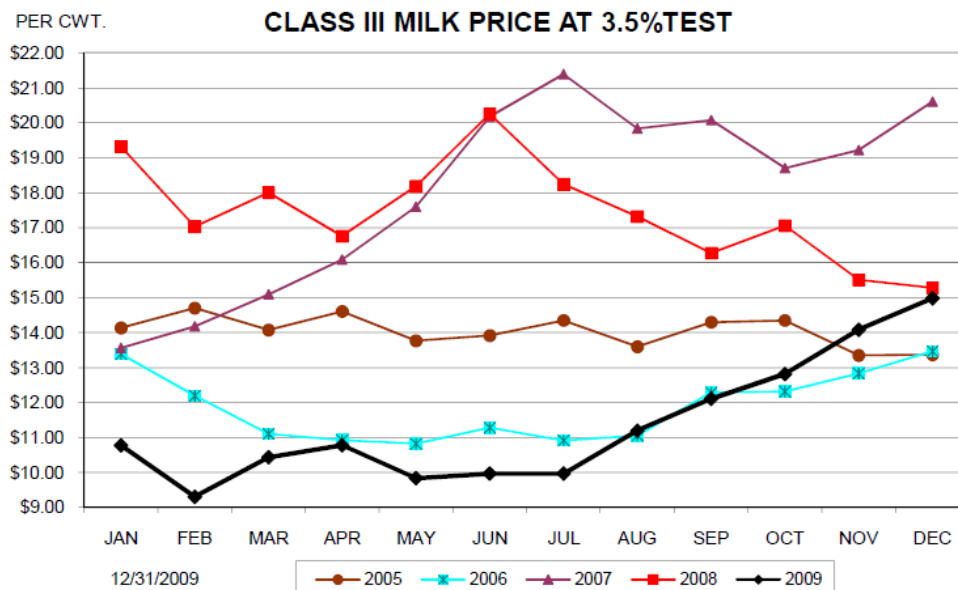
全酪連購買部
購買推進課

新年明けましておめでとうございます。
本年も宜しくお願い申し上げます。

仕事初めにあたり、10年前の輸入粗飼料の情勢には何が書かれていたのか？平成12年1月号を確認したところ、「フレート高」や「上級品がタイト」「産地価格上昇」「韓国の引合い」等々、今と変わらないような言葉が多く列挙されていて、大きな流れは変わっていないな、と感じました。しかしながら、品目・草種ごとに作柄が変わるのはもちろんのことで、米国西海岸港湾スト（02年9月）が実施されて船積みが大きく乱れたことがあったり、昨年からはUAEの引合いが増えたりと、情勢は常に変化を続けています。“スピーディーかつ分かりやすい”をモットーに、今年も粗飼料の情勢をお伝えしたいと考えています。ご愛顧のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

米国の乳価動向

先月号でご案内の通り、米国の乳価は8月から回復基調で、引続き価格が上昇しています。多くの米国酪農家で利益が出るようになる見込みなので、10年産乾牧草では再び旺盛な買付となるか、今後の米国の酪農情勢にも注意が必要です。

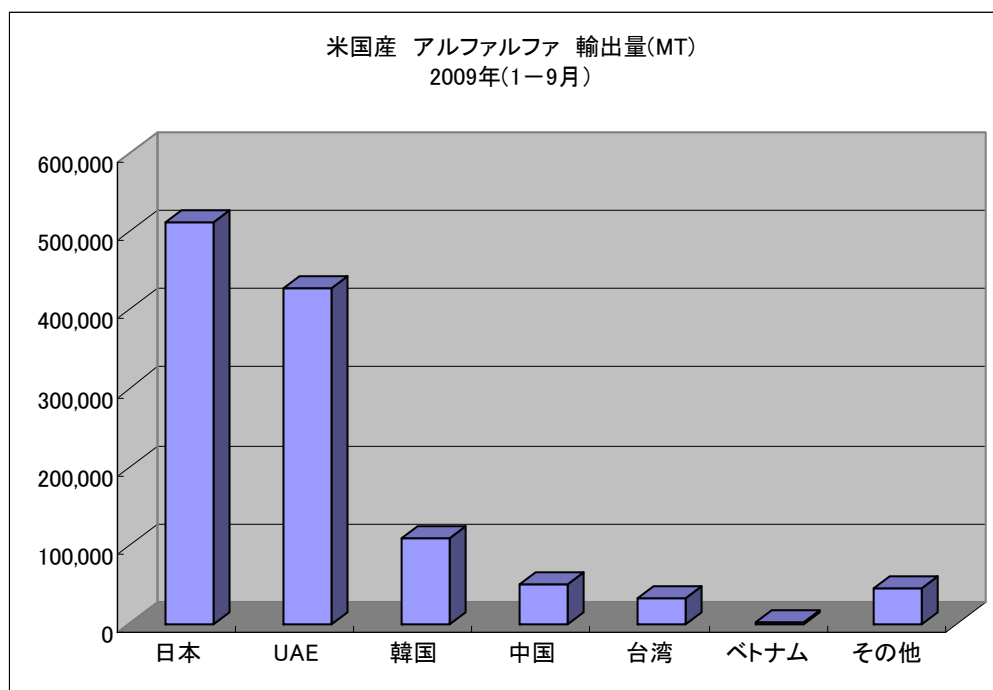


UAE需要動向

冒頭で触れましたが、特に昨年からUAE（アラブ首長国連邦）向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出され始めました。昨年1－9月累計では日本向けがまだ1番の輸出量となっていますが、4、5、8、9月単月で、それぞれUAE向け輸出が日本向けを上回る結果となりました。UAEからは今年もアルファルファだけではなく、禾本科牧草の引合いも強いことが予想され、産地価格への影響を含めて、今後も動向に注意が必要です。

米国産アルファルファ輸出量 (MT) 1－12月・2009年は1－9月

	2007年	シェア	2008年	シェア	2009年	シェア
日本	490,106	66%	558,492	61%	511,135	43%
韓国	134,489	18%	159,352	17%	109,244	9%
UAE	27,946	4%	103,419	11%	426,396	36%
台湾	54,227	7%	51,248	6%	32,138	3%
中国	2,321	0%	19,348	2%	50,210	4%
ベトナム	1,117	0%	1,248	0%	1,153	0%
その他	38,299	5%	24,951	3%	46,395	4%
計	748,505	100%	918,058	100%	1,176,671	100%



北米コンテナ船フレート

9月からGR I（General Rate Increase：基礎レート）の値上げに始まり、10

月に入り多くの船会社でBAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）の値上げが実行されて、11月に一部船会社で\$150-200の値上げ、さらに12月に各船会社より\$150（LA/LB港は\$100）のGRI-斉値上げが実行されました。1月には再びBAFの\$44値上げが決定しており、さらには2月15日から、12月のGRIと同様に\$150（LA/LB港は\$100）の値上げ通知連絡が船会社から来ています。各船会社とも世界的な不況を背景に経営悪化が続いているため、航路・スペースの合理化、運賃回復への動きの影響がより一層色濃く出始めています。

■海運大手3社の2009年4～9月期連結決算

	売上高	営業損益	最終損益
日本郵船	7,945(▲44.0)	▲370(—)	▲293(—)
	16,800(▲30.9)	▲180(—)	▲270(—)
商船三井	6,245(▲43.0)	▲114(—)	▲99(—)
	13,000(▲30.3)	100(▲94.9)	20(▲98.4)
川崎汽船	4,004(▲45.6)	▲424(—)	▲432(—)
	8,100(▲34.9)	▲590(—)	▲790(—)

※単位：億円、カッコ内は前年同期比増減率%、▲はマイナスまたは赤字、下段は通期見通し。—は比較できず

ビートパルプ

<米国産>

例年であれば10月中旬で概ね終了するところですが、今年は9月1週目の収穫開始から降雨が多く、収穫作業の中断を余儀なくされた圃場が多かったことと、寒波の到来が例年より早く一部圃場ではビート大根が凍結してしまい、収穫を断念せざるを得なかったことから、収量は前年比10-30%減少する見込みです。製糖およびペレット製造は春先まで行われる予定です。10年産の作付けは5月に行われますが、現時点では09年産と変わらない水準の作付面積と予想されています。

<中国産>

中国産ビートパルプの09年産については、作付面積が大きく減少し、悪天候続きにより収量も減少している模様です。また、中国国内の需要も増加傾向にあり、供給余力が不安視されています。

韓国の輸入統計によると、11月のビートパルプの総輸入量は10,581トンで、そのうち中国産は約6,000トン、その他米国、ドイツ、エジプト産と続きます。今後も引き続き、中国産の輸入数量が減少する見込みです。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

コロンビアベースンでは収穫は終了しています。現在、輸出向けの需要は強く供給がタイトな状況が続いています。特に3タイププレミアム品への需要が強く、ほぼ完売の状況です。一方でBIGベールのローグレード品については、在庫に若干余裕がある模様です。

現在の産地価格は、09年産の作付面積増加（昨年比）による生産量の増加と、米国酪農家からの買付け減少から、低い水準で推移しています。そのため、10年産の作付面積については、アルファルファから他の作物への転作を検討する生産農家もいるため、若干の減少が予想されています。また、作業効率の良いBIGベールでの収穫を望む生産農家が引続き増えているため、10年産はさらに3タイププレミアム品の収穫が減少することが予想されます。

<カリフォルニア産>

需要の中心は韓国・UAE向けで船積みも順調なため、産地在庫はほぼ完売の状況です。インペリアルバレーでは、10年産の作付面積については12/15時点でのエーカーレポーターによると、前年対比105%の135,287エーカーとなっております。

チモシー

<米国産>

ハイグレード品（馬用・牛用プレミアム品）の引合いは強く、現時点では完売で追加での買付けは厳しい状況です。当初は牛用プレミアム品までが強い引合いとなっていました。買付けできないハイグレード品と生産量が減少したカナダ産の代替需要が1番刈のスタンダード品まで広がったため、同グレードの引合いも強まり、1番刈は全てのグレードでほぼ完売の状況です。

価格については、順調な需要と船積みを受けて、1月から大幅な値上げとなっております。

<カナダ産>

生産農家の在庫もほぼ無くなり、完売の状況です。生産量が少ないため、日本向け以外の他国への輸出については供給力がなく、船積みは限定的な模様です。カナダ国内向けの引合いは引続き強く、本格的な冬を迎えてローグレード品の引合いも強くなってきたようです。

スーダン

インペリアルバレーでは収穫が終了しています。茎太や茶葉が多いローグレード品については若干余裕があるものの、茎細のプレミアム品およびライトカラー品については生産量が大幅に減少したため、完売の状況です。

北カリフォルニアでも収穫が終了しています。2番刈で期待されていたプレミアム品が少なかったことから、今後もさらに供給のタイト化が見込まれています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

クレイングラスの収穫は終了しました。ライグラス、フェスキューの値上げの影響で、韓国から引合いが増え始め、さらにUAEからも引合いがある模様です。韓国も品質にうるさくなってきたとの情報もあり、今後も他国向け需要の動向に注意が必要です。

バミューダ

バミューダハイは、ローグレード品は荷動きが若干悪く、プレミアム品を中心に順調に船積みがされているようです。バミューダストローは、ライグラス、フェスキューの値上げの影響で、引合いが増え始めた模様です。完全に移行させた韓国の顧客もいるようで、今後も順調な引合いが予想されます。

ストロー類

09年産のストロー類の作付けは、前年対比でライグラス、フェスキューともに20%減少となっています。ライグラス、フェスキューともに刈取り後に多くの圃場で雨あたりとなり、良品の確保が難しくなっている模様です。日本や韓国だけではなく、UAEからの引合いも強いようですが、値上げ一辺倒の産地価格の影響で他草種（クレイングラス・バミューダストロー・豪州産オーツハイ・中国産稲ワラほか）への需要の移行も懸念されるため、各サプライヤーとも追加買付に消極的です。ますます確保が難しくなる、という悪循環に陥っています。

豪州産オーツハイ

<西豪州>

08年産は雨あたり被害が大きく、生産農家の作付け意欲が減退し作付面積が前年対比で約20%減少しました。ただ播種前と生育期に適度の降雨があったことでオーツハイの成長は良く、09年産の単収は例年以上となっています。そのため生産量は前年対比で20%増加と見込まれています。

品質については、刈取中期に降雨があったため約40%の圃場で雨あたり被害を

受けてしまいました。またこの雨を避けるために刈遅れとなった圃場もあり、見た目が良好でも分析値がさほど良くないものも出ているため、西豪州からは様々なグレードのオーツヘイが発生している模様です。

<南豪州>

西豪州と異なり、08年産は良品揃いだったことにより作付面積は前年対比で増加しています。また播種期から生育期にも適度の降雨があったため単収も増えており、前年対比で生産量も増加しています。

品質については、刈取初期に降雨があり、サプライヤーによりますが約35%の圃場で雨あたり被害を受けてしまいました。その後は天候も回復したことにより雨あたり被害がないものも多く収穫されています。したがって、南豪州でも様々なグレードのオーツヘイが発生している模様です。

以 上